福井県地域経済の概観（2021年下期を中心に）

1．概況・要約

□概　況

米国経済は，感染抑制を映じてサービス消費が回復したことや小売・卸売業を中心とした在庫復元の動きなどから，2021年10～12月期の実質GDPが，前期比年率＋6.9％と成長ペースが加速している．一方，ユーロ圏では，10～12月期実質GDPが前期比年率＋1.2％と前期から鈍化したものの，コロナ禍前の2019年平均を上回る水準まで回復．中国経済も，外需の拡大や電力不足の緩和などを背景に10～12月期の実質成長率が前期比年率＋6.6％と，前期の同＋2.8％から加速（前年同期比＋4.0％）している．

こうした中，2021年下期における日本経済を概観すると，7月入り後は，感染拡大を受けた緊急事態宣言の4度目の発令により，各種の物販をはじめ宿泊・飲食サービスなど個人消費の抑制傾向が続いたほか，設備投資も前年割れで推移．供給面でも，電子部品・デバイスは堅調ながら，半導体不足や東南アジアからの部品調達の停滞による自動車の減産などから，低調な操業が続いた．ただ，秋口以降は，ワクチン接種の進捗と新規感染者の低下傾向，それによる9月の緊急事態宣言解除を受け，停滞した宿泊・飲食サービス関連需要を含め国内での経済活動の再開が進み，10～12月期のGDP成長率は，物価変動の影響を除いた実質（季節調整値）で前期比＋1.3%と2四半期ぶりのプラス，年率換算でも＋5.4%となっている．

一方，2021年下期の福井県経済を概観すると，需要面では，原材料価格の上昇といった悪影響も見られたが，徐々に経済活動の再開が進む中で，雇用・所得環境の改善が進んだことや各小売店のワクチン接種率の進捗と防疫措置の緩和などから，一昨年厳しい環境に置かれたコンビニエンスストアでも売上が前年比プラス水準で推移するなど，幾分持ち直しの動きが強まった年といえる．特に，10月入り後は，この傾向が顕著となり，多少なりとも復調への期待が高まった．また，企業の設備投資や住宅需要，公共投資も堅調を持続．以上から，同年における県内の需要面での動向は，不確実性を伴いつつも持ち直しの動きが強まった一年であったといえる．一方，供給面では，下期，8月以降は県独自の感染警報の発令や原材料高，部品供給の停滞や長期化する半導体不足などを背景に生産水準が低下するなど，先の見えない状況が続いた．

□要　約

［第1次産業］

・漁　　業　2021年下期（7～12月）の福井県の漁獲量は4,169トンで，前年比▲15.6％となった．漁法別では，定置網は2,761トン（前年比△20.1％），底びき網で874トン（同▲6.0％），釣り，延網，さし網，その他の漁法で533トン（同▲3.1％）である．

・農　　業　福井県における令和3年産の水稲作付面積は2万4,500ha（前年産に比べて600ha減少），10aあたりの収量は515kg（同，3kg減少）となった．その結果，水稲収穫量は12万6,200トンで，前年産比3,800トンの減少となった．作況指数は99（前年産は99）であった．

［第２次産業］

・繊維工業　県内繊維工業の動きをみると，新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛の影響もあり，相変わらず女性もの衣料品が不調ながら，非衣料向けが持ち直していることなどから，全体では緩やかに持ち直しつつある．

・眼鏡工業　眼鏡枠の生産状況をみると，国内需要は，安価な中国品の増勢と感染症の影響による需要不振から依然厳しい展開にあるものの，海外需要は，主力の欧米市場の復調から，全体としては持ち直しの動きが続いている．

・機械工業　主力の電子部品・デバイスや輸送機械，汎用機械なども，新型コロナ感染拡大による操業度合いの停滞や恒常的な半導体不足の影響を受け，7月以降落ち込んでおり，総じてみれば，回復に向けた動きに一服感が出始めている．

・化学工業　特殊樹脂モノマー，環境衛生関連薬剤やフッ素化成品，家庭菜園・園芸資材やエクステリア用品，アウトドア用品などの農業資材分野，キャビネット・カートなどを中心に，概ね横這いで推移している．

・建　　設　2021年7-12月期の県内公共工事は，発注件数（累計）で1,774件，前年同期比で10.4％減，請負金額（累計）は472億21百万円で，11.4％減と発注件数，請負金額とも前年同期より10ポイント以上減少した．

［第３次産業］

・小売商況　近畿経済産業局が発表した大型小売店販売状況によると，福井県における2021年7-12月期の大型店販売額は，全店ベースで429億50百万円，前年同期比1.2％の増加となった．

［主要経済指標］

・鉱工業生産指数　全体では堅調も，半導体不足がボトルネックとなっている
・公共工事　各種大型工事の反動減を主因として減少傾向となった
・住宅建築　上半期同様昨年の反動増の影響が続いている
・保証承諾　保証承諾，代位弁済とも小康状態が続いている
・雇用情勢　有効求人倍率は各月全国1位で推移している
・企業倒産　小康状態が続いているものの，後半には増加傾向となっている
・自動車販売　サプライチェーンの混乱で前年割れとなった

（南保　勝）

2．第1次産業

□福井県漁業の概況

～2021年下期の福井県漁業と魚種別漁獲量の動向～

2021年下期（7～12月）の福井県の漁獲量は4,169トンで，前年比△15.6％となった．漁法別では，定置網は2,761トン（前年比△20.1％），底びき網で874トン（同，△6.0％），釣り，延網，さし網，その他の漁法で533トン（同，△3.1％）である．

月別にみると，合計では7月は前年を上回る漁獲量になったものの，他は前年を下回る結果となった．漁法別では，定置網は7月と11月，底びき網と釣り，延網，さし網，その他の漁法は7月と9月で前年を上回ったが，その他の月は，前年比でマイナスとなり，2021年の下半期はいずれの漁法においても前年を下回る結果となった（表１）．

表１　2021年下期の漁獲量の推移

（単位：Kg，％）

	合計		定置網		底びき網		釣りなど，その他の漁法	
	漁獲量	前年同月比	漁獲量	前年同月比	漁獲量	前年同月比	漁獲量	前年同月比
2021,7	1,107,409	15.2	810,367	17.9	17,824	5.0	279,217	8.5
2021,8	451,540	△ 15.8	334,391	△ 11.8	9,121	△ 38.6	108,028	△ 23.9
2021,9	675,357	△ 16.3	400,148	△ 32.2	235,751	25.8	39,458	37.1
2021,10	714,248	△ 41.7	432,156	△ 51.9	248,053	△ 11.6	34,039	△ 24.8
2021,11	709,804	△ 0.3	389,105	1.9	283,655	△ 2.3	37,044	△ 6.9
2021,12	510,500	△ 26.6	395,213	△ 23.8	80,028	△ 42.8	35,259	△ 4.9
下期合計	4,168,858	△ 15.6	2,761,380	△ 20.1	874,432	△ 6.0	533,045	△ 3.1

表２　2020年漁獲量上位５魚種の2021年下期における漁獲量の推移

（単位：Kg）

	2021,7	2021,8	2021,9	2021,10	2021,11	2021,12
ブリ銘柄	64,362	50,298	25,522	63,251	15,973	119,270
サワラ	328,399	164,817	172,349	151,796	156,048	195,609
スルメイカ	141,944	13,380	3,156	2,761	―	―
アカガレイ	―	―	36,710	18,310	30,232	17,554
シイラ	29,974	48,479	131,187	109,109	35,561	2,769

なお，2020年漁獲量上位5魚種の2021年下期における漁獲量の推移は表２のとおりである．ちなみに，スルメイカとアカガレイの漁獲量「-」は，スルメイカは夏から秋が漁獲対象であり，アカガレイは底びき網の解禁が9月初旬のためである．

～近年のズワイガニの漁獲量と単価の動向～

2021年11月および12月のズワイガニの漁獲量は，オスが56トンと19トンで計75トン，メスが136トンと13トンで計149トンであった．前年と比較するとオスは減少，メスは増加している（オス△14トン，メス＋40トン）．

なお，1kgあたり単価は，オスは11月で13,304円（前年同月比＋2,213円），12月で19,478円（同，＋3,682円），メスは11月で3,128円（同，△490円），12月で4,345（同，△1,549円）と，オスの価格上昇が目立つ（表３）．

表３　ズワイガニの漁獲量と単価の推移

	ズワイガニ（オス）		ズワイガニ（メス）	
	漁獲量（t）	1kgあたり単価（円）	漁獲量（t）	1kgあたり単価（円）
2018,11	85	7,529	118	2,507
2018,12	36	10,261	16	4,044
2019,01	33	7,784	―	―
2019,11	74	7,619	96	3,096
2019,12	44	10,148	20	3,658
2020,1	22	7,817	―	―
2020,11	60	11,091	98	3,618
2020,12	29	15,796	11	5,894
2021,1	10	6,648	―	―
2021,11	56	13,304	136	3,128
2021,12	19	19,478	13	4,345

オスの価格高騰は，越前ガニのブランドが確立されたこともさることながら，2021年は長引くしけの影響によって出漁回数が減ったことによる漁獲量の減少も一因と考えられる．一方，メスは漁獲量が昨年比でプラスになったことで，価格の低下が見られた．

（杉山友城）

※2021年通年の概況（詳細）は次号の予定．

【注】本稿は主として，福井県水産試験場が公表する「水試だより」をもとに執筆した．

□福井県農業の概況

～水稲収穫量の動向～

福井県における令和3年産の水稲作付面積は2万4,500ha（前年産に比べて600 ha減少），10aあたりの収量は515kg（同，3kg減少）となった．その結果，水稲収穫量は12万6,200トンで，前年産比3,800トンの減少となった．作況指数は99（前年産は99）であった．

地帯別にみると，10aあたりの収量は，嶺北が519kg（前年産524kg），嶺南が494kg（同，487kg）であった．その結果，水稲収穫量は，嶺北では10万9,500トン（前年産に比べて2,600トンの減少），嶺南では1万7,200トン（同，500トンの減少）となった．作況指数は，嶺北が99（昨年は99），嶺南が99（同，100）であった（表１）．

表１　福井県における令和３年産の水稲収穫量

		作付面積	10a当たり収量	収穫量	対前年比	作況指数
		ha	kg	t	t	-
福井県		24,500	515	126,200	△3,800	99
	嶺北	21,100	519	109,500	△2,600	99
	嶺南	3,490	494	17,200	△500	99

6月以降から天候に恵まれ穂数は「平年並み」，1穂当たりのもみ数も7月中旬以降の好天によって「やや多め」となり，全もみ数は「平年並み」となった．ただ，登熟（穀物の種子が次第に発育・肥大すること）は，8月中下旬の日照不足により「やや不良」となり，令和3年産の水稲収穫量は，前年を下回る結果となった．

～令和4年産米の生産数量目安～

福井県では，県農業再生協議会が，国が示した需給見通しなどを参考にするとともに，福井県産米の需給状況と需要見込みに基づき，毎年「生産数量の目安」を示している．

国が示した需給見通しによれば，令和3年産生産数量の目安693万トンであったのに対し，令和4年産生産数量の目安は675万トンと設定した．この数値を参考にするとともに，福井県産米の需要見込みに基づき，11万5,347トン（面積換算値2万2,225ha）が，令和4年産米の生産数量目安とされた．なお，前年比で数量は△2,762トン，面積は△532haである（表2）．

表２　福井県における米の生産数量の目安の推移

（単位：t）

年度	R２年産米		R３年産米		R４年産米	
		対前年比		対前年比		対前年比
数量	119,780	△ 1,504	118,109	△ 1,671	115,347	△ 2,762

～今後の需要回復，戦略的な対応に期待～

令和3年は，コロナウイルス感染症拡大の長期化によって，外食離れによるコメの飲食店需要を落ち込ませるなどを背景に，コメ余りを顕在化させる年になった．

福井県産米は，県内需要だけではなく，関西や中京の需要を満たしてきた．しかし関西や中京の飲食店を利用する訪日客の大幅な減少や時短営業の影響を受けることで，需要低迷が長期化することになった．加えて，本来，首都圏へ出荷される千葉や茨城，栃木産米が行き場を失うことで，関西や中京に流入し，福井県産米の販売不振を長期化させた．

これらを背景に8月には，福井県産のコシヒカリ1等米の内金を60kgあたり1万5,000円（前年比2,700円安），ハナエチゼン，あきさかりは共に9,000円（同，3,200円安）とされた．ブランド米であるいちほまれに至っては，買い取り価格が1万2,000円（同，3,300円安）と，初の下落となった．

令和4年も全国的にコメ余りが高い水準で推移することが目込まれており，福井県産米の生産量を減らす方針である．福井県ではコメの生産の代替としての転作はかつてから積極的に行ってきたため，これ以上の転作を進めることは難題と言える．需要の低迷，内金の下落，収量の減少は，離農や稲作の弱体化を加速させる恐れがあり，その意味で，早期の需要回復や，国や地域が一体となった戦略的な方策の立案と実行を期待したいところである．

（杉山友城）

【注】本稿は主として，北陸農政局が公表した資料「令和3年産水稲の収穫量（北陸）」および，福井県農業再生協議会が公表した資料「令和4年産米の生産数量の目安について」をもとに執筆した．

3．第2次産業

3－1. 繊維工業

【最近の景況】

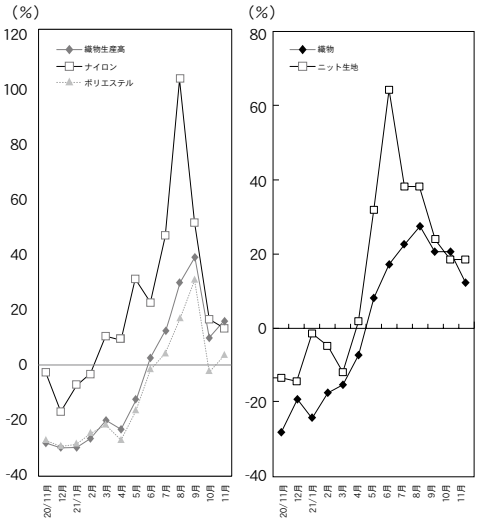
～全体では，ゆるやかに持ち直し～

県内繊維工業の動きをみると，新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛の影響もあり，相変わらず女性もの衣料品が不調ながら，非衣料向けが持ち直していることなどから，全体では緩やかに持ち直しつつある.ただ，個社別の状況を見ると，コロナの影響により展示会，即売会が開かれず，いまだ引き合い，受注とも不調である企業の例がみられるなど，引き続き予断を許さない状況であることがうかがえる.

ちなみに，2021年11月の織物生産高は，総計14,991千㎡，前年同月比14.7％の増加（前月比0.5％低下）であった.主力の合成繊維長繊維織物は，ナイロンが1,692千㎡で前年同月比13.3％の増加（前月比1.0％増加），ポリエステルが10,074千㎡で，同4.0％の増加（同2.6％減少）となり，品目による格差が目立っている．一方,同年11月の染色整理加工高は，織物が前年同期比14.7％増加し26,517千㎡，ニット生地も10,593千㎡の同16.3％の増加となっている.

（南保　勝）

織物生産高・加工高（前年同月比）の推移



資料：福井県総務部情報政策課

3－2. 眼鏡工業

【最近の景況】

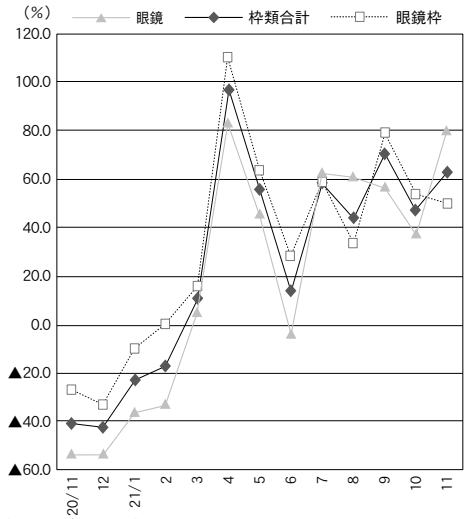
～海外向けなどで持ち直しの動き～

眼鏡枠の生産状況をみると，国内需要は，安価な中国品の増勢と感染症の影響による需要不振から以前厳しい展開にあるものの，海外需要は，主力の欧米市場の復調から，全体としては持ち直しの動きが続いている.こうした中，産地では，流通段階でのもう一段のパワーアップを目指し,「作る産地から売る産地」を目指し，新素材やオリジナリティーある眼鏡枠づくりに取り組む例がみられるほか，小売業を主導とする流通の在り方を改善するため，デジタル化やEC（電子商取引）導入による産地内企業のイニシャチブ奪還を目指す動きが活発化している.

一方，最近の輸出動向をみると，2021年1～10月累計の輸出実績は，枠類（眼鏡枠，眼鏡，部品の合計）が264億29百万円，前年同期比27.8％の増加となっている.ちなみに，眼鏡枠は151億33百万円の前年比37.4％増，眼鏡は112億96百万円の同11.7％の増加であった．これは，今年に入り主力の米国，EUともに増勢に転じていることによる.

（南保　勝）

眼鏡枠類輸出の推移（前年比）



資料：日本関税協会

3－3. 機械工業

【最近の景況】

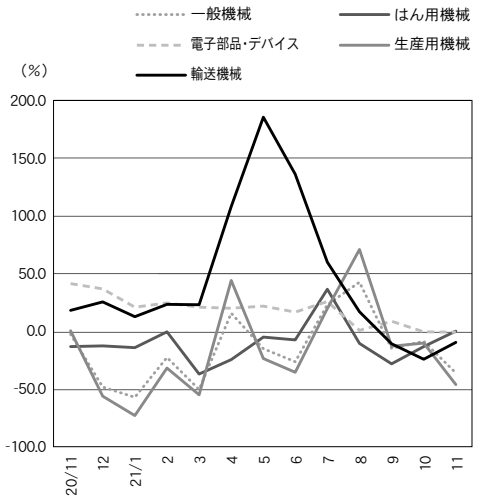
～回復に向けた動きに一服感～

機械工業の動きを見ると，生産用機械は，半導体製造装置が拡大しているほか，金属加工機械，繊維機械などが増加しており，全体では拡大しつつある．しかし，主力の電子部品・デバイスは，年初来，スマートフォン需要を中心に順調な生産を維持したものの，年末にかけては足踏み状態に陥っているほか，輸送機械，汎用機械なども，新型コロナ感染拡大による操業度合いの停滞や恒常的な半導体不足の影響を受け，7月以降落ち込んでおり，総じてみれば，回復に向けた動きに一服感が出始めている．こうした中で鉱工業生産指数（2015年＝100，原指数）も，年央にかけては，電子部品・デバイスが110～140，輸送機械が90～140と，プラス水準で推移していたものの，その後は，どれも100を下回る水準で推移するなどの，厳しい操業環境に陥っている．

今後の状況としては，これまで通り新型コロナウイルス感染症の負の影響に加え，部品不足，昨今の原材料価格アップが続けば，生産はさらに厳しさを増すことが予想される．

（南保　勝）

機械関連工業の鉱工業生産指数
（前年比の推移，原指数）



資料：福井県総務部情報政策課

3－4. 化学・プラスチック工業

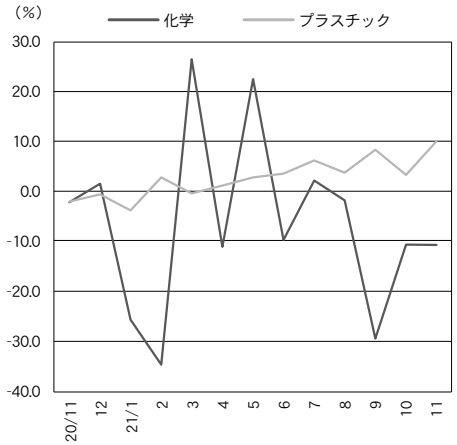
【最近の景況】

～総じて，横這いで推移～

本県の化学・プラスチック工業の状況をみると，一昨年，住宅関連部材が新型コロナウイルス感染拡大で大幅な需要減に見舞われたが，それに比べれば今年は緩やかな増加基調で推移している．しかし，コロナ禍以前の水準までには達していない．そのため，業界では非住宅分野やリフォーム分野など新たな成長分野への需要掘り起こしを図る例がみられる．一方，特殊樹脂モノマー，環境衛生関連薬剤やフッ素化成品は堅調に推移．コスメティクス分野も長期にわたる緊急事態宣言による市況悪化の影響は強いが，主力のヘアケアブランドの拡販等により堅調に推移．その他，家庭菜園・園芸資材やエクステリア用品，アウトドア用品などの農業資材分野は，昨今の巣ごもり需要もあって顕著を持続．病院向けキャビネット・カートも順調な推移となった．総じて，先行き不透明感の強い化学製品分野に対し，プラスチック製品は概ね横這いで推移．先行きについては，原材料価格のアップやコロナ蔓延等，注視する必要がある．

（南保　勝）

化学・プラスチック工業の鉱工業生産指数
（前年比の推移，原指数）



資料：福井県総務部情報政策課

3－5. 建設業

□公共工事

～2021年下半期は，各種大型工事の反動減を主因とする減少～

2021年7-12月期の県内公共工事は，発注件数（累計）で1,774件，前年同期比で10.4％減，請負金額（累計）は472億21百万円で，11.4％減と発注件数，請負金額とも前年同期より10ポイント以上減少した．

月別では，発注件数は7月が前年同月比9.9％減，8月11.6％減，9月6.3％減，10月21.2％減，11月23.4％減，12月18.3％増であった．

請負金額は，7月が前年同月比13.8％増，8月11.9％ 減，9月19.1％ 増，10月31.2％ 減，11月69.0％減，12月20.4％増．

7月－12月の発注者別の状況をみると，国関連では件数が前年同期比4.7％減，独立行政法人関連が18.2％減，県関連が16.0％減，市町関連が4.6％減であった．

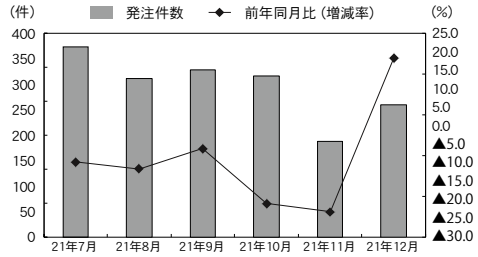
また請負金額については，国関連が24.2％減，独立行政法人関連が51.2％減，県関連が24.7％減，市町関連が27.0％増であった．

国関連では，大野油坂峠道路などの大型工事の反動減による減少．独立行政法人関連では，北陸新幹線大型工事の反動減が大きく請負金額が50ポイント以上減少．県関連では道路改良工事や水利関連工事の反動減による減少があった．市町関連では，福井市等の請負金額増により増加となった．

公共工事関連業界では，北陸新幹線関連などの大型公共工事が終盤となり，仕事が薄くなっているうえ，原油高などのコスト増などで収益を圧迫しており，先行きへの不安感が強まっている．

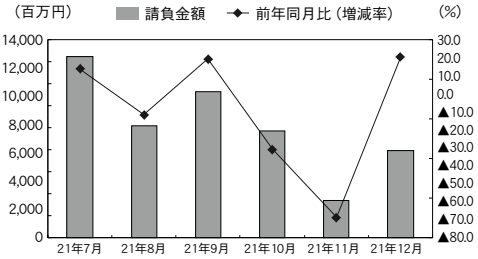
（芹澤利幸）

図表１　県内公共工事発注件数の推移



資料：東日本建設業保証株式会社

図表２　県内公共工事請負金額の推移



資料：東日本建設業保証株式会社

□住宅建設

～2021年下半期も，上半期同様昨年の反動増が続く～

2021年7-12月の県内新設住宅着工戸数は，対前年同月比で7月127.7％，8月212.7％，9月123.5％，10月162.5％，11月103.9％，12月132.4％．今期は昨年の反動増が主な増加要因．7-12月対前年同期比は，148.5％．

北陸三県では，7-12月対前年同期比では，石川県が対前年同期比125.3％，富山県が133.6％．全国計では，111.6％．北陸三県では本県の伸び率が上半期に続き一番大きくなった．

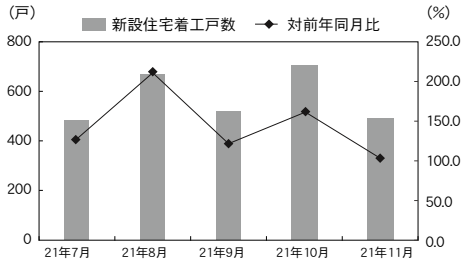
利用関係別では7-12月前年同期比で，持家が109.9％．7月・8月・10月は反動増で大きく伸びたが，9月・11月・12月は住宅関連資材不足による着工遅れなどの影響を受け前年を下回るなど，月によって大きく変動した．貸家については前年同期比193.6％．すべて

の月で前年を大きく上回り，8月の前年同月比445.6％，11月の同258.3％など極端に増加した月があった．北陸新幹線開業に向けた投資用賃貸物件が増加しているものと思われる．分譲住宅も，前年同期比252.2％と大幅に増加した．

福井県中小企業団体中央会の関連業界組合での調査によると，資材高が続くことでの収益悪化を懸念する声が多い．

（芹澤利幸）

図表１　県内新設住宅着工戸数の推移



資料：福井県土木部建築住宅課

4．第３次産業

□商業

～2021年下半期は，前年並みで推移～

近畿経済産業局が発表した大型小売店販売状況によると，福井県における2021年7-12月期の大型店販売額は，全店ベースで429億50百万円で前年同期比1.2％増．

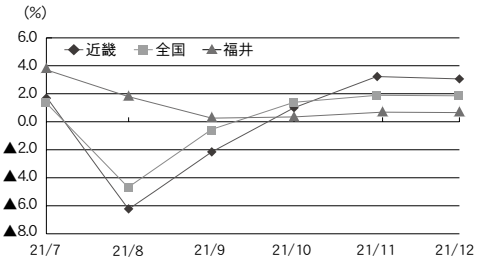
月ごとの動向は，7月が前年同月比3.8％増，8月1.8％増，9月0.2％増，10月0.4％増，11月0.5％増，12月0.5％増であった．7・8・9月は，県内で新型コロナウイルス感染症の感染拡大（第5波）により，食料品を中心とした巣ごもり需要により前年を上回った．9月以降は，感染に収束が見られたことから，消費が旅行等に分散したこともあり，ほぼ前年並みで推移した．

期間中の具体的な動向としては，本県は飲食料品の販売額ウエイトが大きく，第5波により感染が拡大した8月も前年を超える売り上げとなったが，ファッション関連では不振が続いた．感染も収束した10月後半からは，本県の消費喚起策により，食料品が反動減で減少した分がファッション関連の増加と相殺され，全体では前年並みで推移した．

福井県中小企業団体中央会が調べた県内共同店舗（地元協同組合方式ショッピングセンター，以下SC）の直近の売上動向調査によると，食品等は堅調であるものの，ファッション関連などで空き店舗が増え始めていること，新型コロナウイルス感染症の影響長期化で消費動向そのものが変化していることから，先行きへの不安が大きくなっている．

（芹澤利幸）

図表１　大型小売店販売額の推移（全店ベース）



資料：近畿経済産業局

□自動車販売

～2021年下半期は，サプライチェーンの混乱で前年割れに～

福井県自動車販売店協会がまとめた新車販売台数をみると，2021年7-12月期で総計15,856台，前年同期比で83.0％であった．月別では，前年同月比で7月92.1％，8月103.3％，9月61.5％，10月68.9％，11月90.4％，12月91.2％であった．上半期は前年の反動増で好調であったが，8月以降半導体不足や東南アジアからの部品調達難が鮮明になり，需要に供給が追い付かない需給ギャップが大幅減の要因．

車種別の動向をみると，乗用車（普通車及び小型車）は，前年同期比で85.0％．月別では7月102.6％，8月111.1％，9月61.3％，10月65.0％，11月91.2％，12月91.7％．9月，10月は半導体不足に加え，部品調達難による減産の影響が販売に大きく響いた．

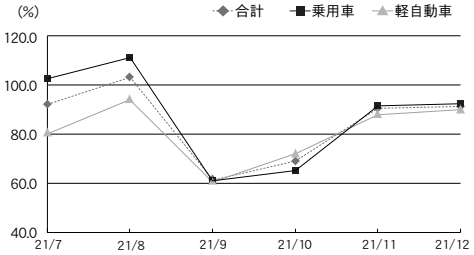
軽自動車については，前年同期比で79.9％であった．月別では7月80.2％，8月94.5％，9月60.7％，10月72.2％，11月89.1％，12月90.3％．軽自動車については，7月以降前年割れが続いた．

貨物車（小型貨物及び普通貨物）は，前年同期比で84.7％．月別では7月97.0％，8月105.7％，9月57.0％，10月76.4％，11月88.3％，12月96.6％．

バスについては前年同期比90.3％であるが，一昨年同期比では50.9％と，コロナ禍の影響を受け，観光バスを中心に販売不振が続いている．

自動車業界では，メーカーの半導体不足の影響が続いているものの，生産回復の見込みが公表されたが，年明けにオミクロン株の感染拡大に伴う生産への影響が出始めており，需給ギャップの解消が見通せず，先行きへの不安感が高まっている．（芹澤利幸）

図表１　県内新車販売台数の推移（前年同月比）



資料：福井県自動車販売店協会

□観光・レジャー

～2021年下半期は，前年並みもコロナ禍の影響続く～

国土交通省観光庁が発表した，「宿泊旅行統計調査報告」（「2021年7～11月の各月統計を集計）によると，福井県での延べ宿泊者数は2021年7-11月期で1,177,570人（前年同期比95.9％）であった．一昨年（2019年7～11月）比では，58.1％．延べ宿泊者数のうち，過去1年間観光目的の宿泊者が50％以上の施設には7-11月期で522,240人（同88.7％），観光目的の宿泊者が50％未満の施設には，同655,340人（同102.7％）．

延べ宿泊者数のうち2021年7-11月期で県内から268,920人（同112.3％），県外から872,760人（同96.2％）．県内宿泊者については，感染拡大が続いていた9月には33,520人であったが，福井県民むけの宿泊キャンペーンなどにより，10月は63,570人，11月は67,920人と増加し，一昨年同期比98.5％まで回復．県外客については，一昨年同期比52.5％と影響が続いた．

宿泊施設タイプ別にみると，旅館が前年同期比90.5％，一昨年比では57.3％．シティーホテルでは，前年同期比103.0％，一昨年同期比では52.6％．ビジネスホテルでは，前年同期比105.7％，一昨年同期比67.4％．昨年比ではほぼ前年並みであるが，コロナ禍前の約半分の宿泊者数で，影響が続いている．

県外客のうち，従業員数100人以上の宿泊施設の居住地別宿泊者数を見ると，2021年7-11月期では愛知県10,040人，大阪府8,674人，京都府3,213人，東京都3,192人，兵庫県3,005人の順．上位5都府県では，前年同期比91.4％であるが，一昨年比では71.7％．

外国人宿泊者数（従業員10名以上の施設への宿泊者数）については，2021年7-11月期で延べ3,790人（前年同期比143.0％）と，昨年を上回っているが，一昨年同期比では，11.9％．国別にみると，コロナ禍が始まって以来1位であるベトナムが510人，次いでドイツ380人，中国230人，フィリピン100人，台湾80人の順．上位10国のうち，ベトナムが前年同期比154.5％，ドイツが115.2％と増加．最も増加しているベトナムについては，ほとんどが外国人技能実習生と思われるほか，ドイツについてもビジネス関連の来県と思われる．

宿泊施設の定員稼働率については，福井市の2021年11月福井市で53.6％．客室稼働率については，2021年11月は福井市で72.0％．

福井県中小企業団体中央会の宿泊施設関連組合へのヒアリングによると，10月以降，各種キャンペーンによる県内客を中心とした宿泊者のほか，県外の修学旅行を主とした団体利用があり，一旦は回復した．しかし，ビジネスを主体とした施設では，宿泊客数の回復がなく，厳しい経営状況が続いている状況．稼働率は回復したが，原油高の影響も受けており，収益状況は依然として厳しい．

（芹澤利幸）

図表１　宿泊施設タイプ別延べ宿泊者数，宿泊施設タイプ別外国人延べ宿泊者数

【福井県 2021年７－11月】

（延べ 人）

延べ宿泊者数	宿泊施設タイプ（6区分）						うち外国人延べ宿泊者数	宿泊施設タイプ（6区分）					
	旅　館	リゾートホテル	ビジネスホテル	シティホテル	簡易宿所	会社・団体の宿泊所		旅館	リゾートホテル	ビジネスホテル	シティホテル	簡易宿所	会社・団体の宿泊所
1,177,570	462,680	81,820	537,730	61,540	33,780	0	4,590	150	410	3,620	400	0	0

資料：国土交通省 観光庁　『宿泊旅行統計調査報告』

図表２　居住地別宿泊者数

【福井県 2021年７－11月】

（延べ 人）

1	愛知県	10,040
2	大阪府	8,674
3	京都府	3,213
4	東京都	3,192
5	兵庫県	3,005
6	滋賀県	2,538
7	岐阜県	1,781
8	神奈川県	1,377
9	奈良県	1,376
10	静岡県	1,269

資料：国土交通省 観光庁　『宿泊旅行統計調査報告』

図表３　国籍別外国人宿泊者数

【福井県 2021年７－11月】

（延べ 人）

1	ベトナム	510
2	ドイツ	380
3	中国	230
4	フィリピン	100
5	台湾	80
6	アメリカ	80
7	韓国	70
8	タイ	50
9	オーストラリア	50
10	インドネシア	30

資料：国土交通省 観光庁　『宿泊旅行統計調査報告』

図表４　宿泊目的別，県内・県外別宿泊者数　【福井県 2021年７－11月】

（延べ 人）

延べ宿泊者数			観光目的の宿泊者が50％以上			観光目的の宿泊者が50％未満		
	県内	県外		県内	県外		県内	県外
1,177,570	268,920	872,760	522,240	178,830	341,810	655,340	90,080	530,950

※「観光目的の宿泊者が50％以上」の施設とは，最近１年間に訪れた宿泊者の宿泊目的を「観光レクリエーション」と「出張・業務」に分けた場合，「観光レクリエーション」が50％以上を占め，最近１年間においては観光目的で訪れた宿泊者の方が多い，という施設です．

資料：国土交通省　観光庁　『宿泊旅行統計調査報告』

5．主要経済指標

□鉱工業生産指数

～全体では堅調も，半導体不足がボトルネックに～

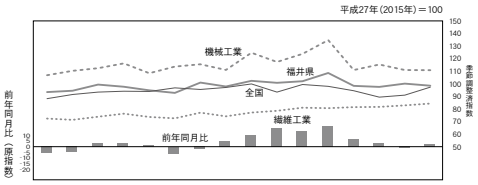
2015年（平成27年）を100とする2021年11月の鉱工業生産指数（総合）は，原指数で102.5で，前年同月比2.1％の上昇となった．資材の供給制約などで需給ギャップが発生していたが，改善傾向となりわずかながら上昇．

業種別生産指数でみると，上昇した業種は化学繊維・紡績（前年同月比40.7％上昇），鉄鋼業（同38.9％上昇），非鉄金属工業（同38.0％上昇），その他の工業（同33.0％上昇）．一方，低下した業種は，生産用機械工業で（同45.4％低下），窯業・土石製品工業（同25.5％低下），パルプ・紙・紙加工品工業（同13.6％低下），化学工業（同10.7％低下）など，消費財の回復などで上昇した業種がある一方，半導体不足などの影響を受け大きく低下した業種もあった．

また，季節調整済指数（総合）は98.6で，前月比1.7％の低下．消費財の回復基調に合わせ繊維工業などでのゆるやかな改善傾向がみられた．一方，半導体不足が長期化しており，生産用機械工業で影響が続いている．

（芹澤利幸）

図表１　鉱工業生産指数の動き



資料：福井県地域戦略部統計情報課

図表２　業種別生産指数（2021年５月）

業　種	原指数（H27=100）	前年同月比（%）	季節調整済指数（H27=100）	前月比（%）
鉱工業総合	102.5	2.1	98.6	▲ 1.7
繊維工業	84.6	11.5	84.4	1.8
織物	95.9	23.3	96.2	2.0
染色整理	87.3	13.8	83.6	▲ 2.7
その他の繊維	91.3	14.0	91.9	6.0
機械工業	116.7	▲ 3.6	111.0	0.1
電子部品・電子デバイス	130.8	0.0	125.5	3.2
一般機械	44.5	▲ 35.1	45.3	▲ 15.3
電気機械	149.8	7.4	133.4	▲ 14.9
輸送機械	112.2	▲ 8.9	100.3	12.2
化学工業	76.5	▲ 10.7	79.8	▲ 18.6
プラスチック製品工業	104.3	10.0	100.1	6.3
その他の工業	78.2	33.0	75.4	▲ 2.1

資料：福井県地域戦略部統計情報課

□保証承諾

～2021年下半期，保証承諾，代位弁済とも小康状態～

福井県信用保証協会公表の2021年12月の保証承諾は，170件（前年同月比7.8％），金額では17億29百万円（同29.4％）と前年に比べ大幅に減少した．今年は，3月の81億61百万円をピークに減少し，7月以降10億強で推移していたが，12月に若干増加となった．

12月の制度別では，県の新型コロナウイルス感染症伴走支援資金が36件，4億86百万円と全体の28.1％であった．また，前年比で大幅に増加したのが，県制度の中小企業育成資金（一般）で5件，75百万円で，前年比1,875.0％であった．

12月の業種別保証状況は，建設業が4億47百万円（前年同月比24.71％）でトップ，次いで小売業2億81百万円（同53.96％），卸売業2億24百万円（同30.59％），運送業2億20百万円（同85.27％）であった．

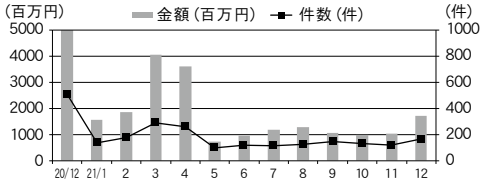
資金使途別（12月末）では，運転資金が15億33百万円となり，全体の88.71％，設備投資が1億65百万円で全体の9.54％．前年同月比で，運転資金が27.14％，設備投資が110.27％と，設備投資が前年を上回った．

代位弁済は，8件，60百万円．前年同月比は件数で3.22％，金額では31.7％と昨年と比較すると小規模にとどまった．

債務保証残高は，12月で15,820件，2,019億82百万円．4月の2,136億21百万円をピークに12月まで連続で減少した．

（芹澤利幸）

図表３　保証承諾の推移



資料：福井県信用保証協会

□雇用情勢

～2021年下半期も，有効求人倍率は各月全国1位で推移～

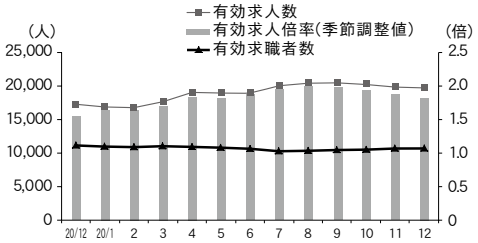
福井労働局が発表（令和4年4月1日）した令和3年12月分の雇用失業情勢は，有効求職者数が10,843人に対し，有効求人数は19,696人で，有効求人倍率（季節調整値）は，1.82倍となった．9月の1.99倍をピークに若干減少傾向にあるが全国と比較すると高水準で推移．全国では，福井県の1.82倍，島根県の1.64倍，富山県の1.60倍の順．なお，9月より有効求人倍率は，受理地別の数値から就業地別の数値に変更されている．（図表4については，8月以前の有効求人倍率についても変更後の数値．）

新規求人倍率は，新規求人数が7,053人，新規求職申込件数が2,549人で，2.77倍（季節調整値）となり，前月より0.55ポイント減少．新規求人数（原数値）は前年同月比8.6％増加で，10か月連続の増加であった．

12月の新規求人数を業種別にみると，製造業で前年同月比58.0％（428人）の増，運輸・郵便業で同10.3％（46人）の増，卸売業，小売業で同8.6％（93人）の増，生活関連サービス業，娯楽業で同7.5％（22人）の増，医療，福祉で同6.8％（73人）の増，サービス業（他に分類されないもの）で同13.4％（77人）の増となった．一方，建設業で同3.0％（26人）の減，宿泊業，飲食サービス業で同24.4％（127人）の減となった．

製造業では，地場産業の繊維工業で同110.6％（125人）の増，眼鏡等製造業で同31.8％（27人）の増となった．その他の業種では，化学工業で同204.2％（49人）の増，はん用・生産用機械器具製造業で同54.1％（33人）の増，電子部品・デバイス製造業で同31.6％（31人）の増となった．　（芹澤利幸）

図表４　月別求人求職状況
（新規学卒を除きパートを含む）



資料：福井労働局

□企業倒産

～2021年下半期は，小康状態続くも，後半に増加傾向～

東京商工リサーチ福井支店発表（2022年1月6日）の2021年12月度の県内企業倒産（負債総額1,000万円以上）は4件，負債総額は5億62百万円であった．前年同月とより3件増加で，10月・11月と倒産件数の増加がみられるが，92ヶ月連続で1ケタ台と小康状態が続いている．

12月の産業別は，建設業で2件，製造業で1件，小売業で1件．原因は販売不振が3件，売掛金等回収難が1件．業歴は，30年以上2件，10年以上1件，2年未満1件．

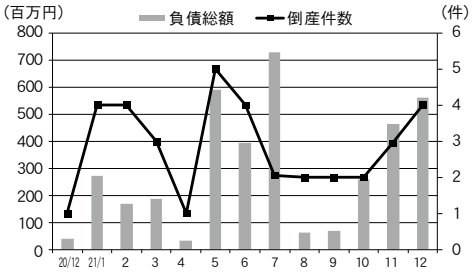
また同支店発表（同上）の2021年年間（2021年1～12月）の福井県企業倒産状況によると，同期間の企業倒産（負債総額1,000万円以上）は，件数が36件，負債総額は38億3百万円と，件数は昨年より12件減少，負債総額は，前年同期比30億95百万円減少．2000年以降件数では最小，負債総額では2番目に少ない．

原因別では，「販売不振が」25件で最多．「既往のシワ寄せ」3件，「運転資金の欠乏」2件，「売掛金等回収難」1件，「その他（偶発的原因）」5件．産業別では，建設業が最多で10件，昨年より増加したのは運輸業で昨年は0件であったが，本年は4件発生した．新型コロナウイルス関連倒産は13件で，2020年6月に初めて確認されて以降，合計22件となった．

2021年は倒産件数が2000年以降で最少となったが，各種資金支援策が資金繰りを支えている様子がうかがえるが，返済猶予期間の終了時期が近づいている一方で，新型コロナウイルス感染症の収束が見えないこと，原油・資材高や供給不足が続いており，事業継続を断念するあきらめ型の倒産増加が懸念される．

（芹澤利幸）

図表５　企業倒産の推移



資料：東京商工リサーチ福井支店